

3. 点検

※精密点検は販売店、または当社お客様相談室にご相談ください。

下記のチェックポイントに従って、日常点検をしてください。

- ☑ **本体容器に変形・腐食・破損がない**
変形・腐食・破損があると、破裂するおそれがあります。
- ☑ **本体容器が垂直に、しっかりと取り付けられている**
斜めや横倒しに取り付けると、十分な能力が発揮されず、放射されない可能性があります。
- ☑ **指示圧力計の指針が緑色の範囲内 (0.7 ～ 0.98MPa) に入っている (前ページ・図 9)**
範囲内にない場合は、十分な能力が発揮できず、放射されない可能性があります。
- ☑ **熱感知ノズルの取付方向が、真下を向き、確実に固定されている**
取付方向が傾いていたり、確実に取り付けられていないと、十分な能力が発揮されない可能性があります。

⚠ 注意

- ⊘ 日常点検のときに、消火装置のネジ部などを緩めたり、分解しないでください。
- ⊘ 掃除するときに、有機溶剤（ガソリン、ベンジン、シンナー等）や中性洗剤などを使用しないでください。
消火装置を掃除するときは、柔らかい布等で、きれいに拭いてください。
- ❗ 製造年から 8 年を経過している場合、新しい消火装置にお取替えください。
- ❗ 異常な点を見つけたとき、整備、交換の際は、販売店、または当社のお客様相談室にご連絡ください。

4. 作動後の処置

⚠ 警告

- ❗ 電気機器を使用している場合はすぐに電源を遮断してください。電気機器の絶縁を低下させることがあります。
- ❗ 消火薬剤が、目に入ったり、皮膚に付着したりしたときは、すぐに水道水でよく洗い流してください。
充血や目の痛みなどの異常を感じた時は、医師の診察を受けてください。
- ❗ 消火後は、必ずガスの元栓を閉めてください。ガスが漏れていると危険です。
- ⊘ 消火薬剤は故意に口にいけないでください。消火薬剤がかかった食べ物は、絶対に食べないでください。

⚠ 注意

- ❗ 消火薬剤がかかった器物は、すぐに掃除してください。
飛散した消火薬剤は中性ですが、そのまま放置すると、器物を汚損し、金属類は腐食する可能性があります。
- ⊘ 一度放射したものは再使用できません。消火薬剤の詰め替えもできません。
新しい消火装置とお取替えください。その際は、必ず販売店、または当社のお客様相談室にご依頼ください。

5. 保証期間

- 保証期間はご購入日から 1 年間です。
- ご購入されたことを証明できるもの（領収書等）は、大切に保管してください。
- 本書や本体ラベルなどの注意事項に従った使用状態において、保証期間内に不具合を生じた場合は、無償で新しい商品とお取替えいたします。それ以外の補償、賠償はご容赦願います。

6. お問い合わせ

ご質問やご不明なことがございましたら、販売店、または当社のお客様相談室にお問い合わせください。

お客様相談室 T E L 0467-85-1210

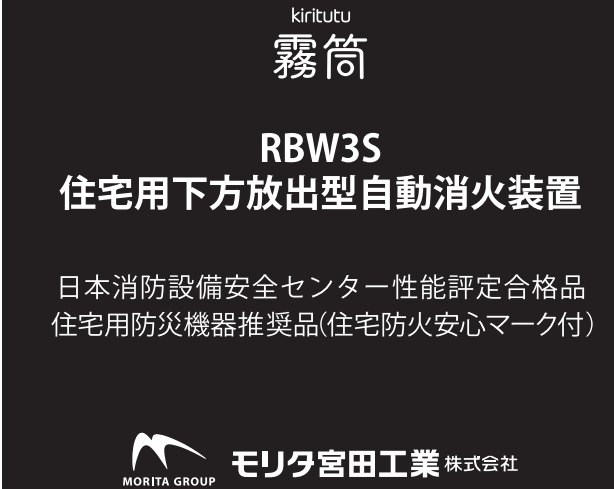
モリタ宮田工業 株式会社

（平日 9:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00, 土日祝休）

〒253-8588 神奈川県茅ヶ崎市下町屋 1 - 1 - 1

取扱説明書

もくじ



1. 仕様	1 ページ
2. 設置方法	2・3 ページ
3. 点検	4 ページ
4. 作動後の処置	4 ページ
5. 保証期間	4 ページ
6. お問い合わせ	4 ページ

この度は、自動消火装置「霧筒 - kiritutu -」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本商品は、住宅用下方放出型自動消火装置です。

火災が発生した場合、熱感知ノズルが火災の発生を感知し、消火薬剤を放射して消火します。

安全にご使用いただくために、本書を必ずお読みください。

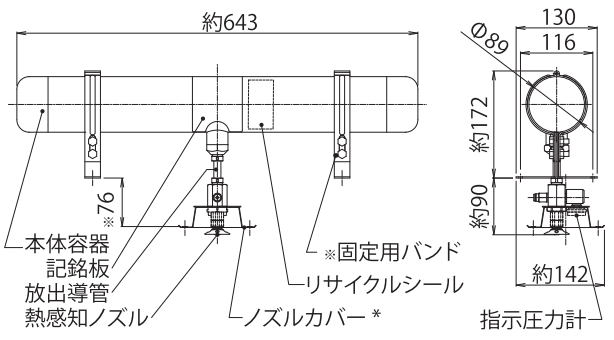
お読みになった後は、本書を大切に保管してください。

本書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから、お読みください。

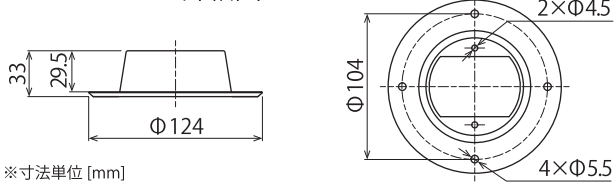
⚠ 警告	：死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	：傷害を負う可能性、または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。
⊘	：行為を「禁止」する記号 … 絶対にしないでください。
❗	：行為を「強制」する記号 … 必ず実行してください。

1. 仕様

※標準（天井厚み 76mm 仕様）



* ノズルカバー詳細図



※寸法単位 [mm]

型 式 記 号	RBW3S 型
評 定 番 号	評 2021-015 号
種 別	住宅用下方放出型自動消火装置
適 応 火 災	一般火災
公称防護面積	3 m ²
消 火 薬 剤	第三種浸潤剤等入り水 3L
総 質 量	約 6kg
感 知 温 度	72℃
使用温度範囲	0℃～+40℃
放 射 時 間	約 12 秒
外 形 寸 法 固 定 用 バ ン ド・ ノズルカバーを含む	H：約 262mm / W：約 643mm D：約 142mm

● 台所のレンジに消火装置を取り付ける場合は、当社の「キッチンレオ FHL10K」または「キッチンレオ FHL4」をお買い求めください。

● 誤作動防止のため、熱感知ノズル付近の温度が高い状態で、数分間経過しないと作動しません。

2. 設置方法

消火装置を設置される方へ

下記の①～⑤の手順で、消火装置を設置してください。

⚠ 警告

- ❌ 本体容器・熱感知ノズルの先端まで圧力が常にかかっています。
絶対に無理な力や、強い衝撃を与えないでください。
- ❌ 高温となる調理器具（ガスレンジ、IH）、瞬間湯沸かし器などの真上には、絶対設置しないでください。
誤放射する可能性があります。

1 消火装置の取付位置を決める

取付台数を決める（図1・図2）

熱感知ノズルは、原則、防護したい場所の真上に設置してください。照明器具などがある場合は、少し離して取付位置を決めてください。取付高さは、床面から 2.5m 以下です。本商品の防護面積は1台あたり3㎡です。3㎡以上の広さを防護する場合は、下記の計算式で取付台数を求めてください。

$$\text{取付台数} = \frac{\text{防護する面積 [㎡]}}{3 \text{ ㎡ (1 台あたりの防護面積)}} \quad ※小数点以下は切り上げます。$$

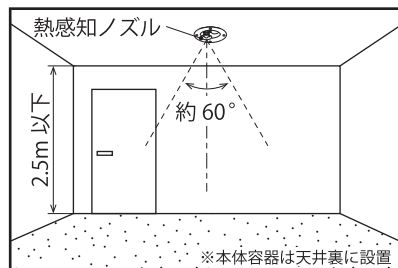


図1

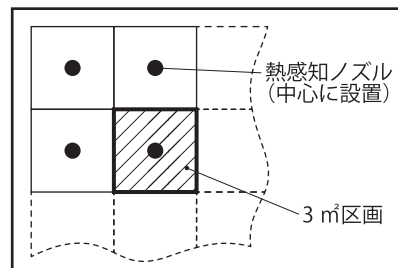


図2

⚠ 注意

- ❗ 熱感知ノズル付近が 72℃以上に達すると、火災以外でも放射してしまう可能性があるため、十分に注意してください。
- ❗ 本体容器に表示されている使用温度範囲（0℃～+40℃）の場所に設置してください。使用温度範囲外で使用すると、満足な性能を得られない場合があります。
- ❌ 下記の場所には、本体容器を設置しないでください。
ストーブなどの発熱器具の近く、湿気の多い場所、水しぶきのかかる場所、直射日光の当たる場所、通行や避難の妨げになる場所。

2 固定用バンドを取り付ける（図3）

- (1) 本体容器の中央から 200 ～ 250mm の位置に、固定用バンドの脚部を合わせ、固定用バンド1個に対して、L字アングルを2個挟んでください。
- (2) 固定用バンド1個に対して、付属の六角ボルトとナットを各2個ずつ使用して、固定用バンドを本体容器に固定してください。

⚠ 注意

- ❗ 固定用バンドの脚を、熱感知ノズルが組付けられている向きに、取り付けてください。

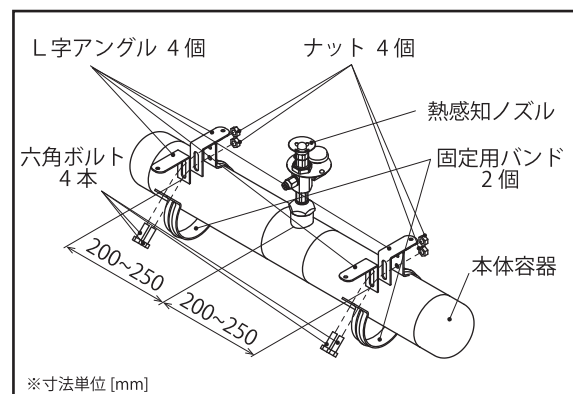


図3

3 ノズルカバーを固定する

① 天井に下穴を開ける（図4）

防護面積(3㎡)の中心に対し、約 15mm 後方にずらした位置に印をつけてください。

(1) 天井の厚みが33mm以上の場合

印を中心として、室内側から直径85mmの穴を、深さ約 33mm で開けてください。さらに、室外側から直径105mm以上の穴を開けて、直径85mmの穴を貫通させてください。このとき、2つの下穴が同心円上になるように開けてください。

(2) 天井の厚みが 33mm未満の場合

印を中心として、直径85mmの穴で貫通させてください。

② ノズルカバーを固定する（図5）

直径 85mm の下穴に、室内側からノズルカバーを通してください。

④で熱感知ノズルを取り付ける際、ノズルカバーの異形穴の短辺方向が、本体容器の長手方向になります(図6)。穴の向きに注意して、直径 5.5mm の穴に化粧ビス(白)※1 を4本使用して、天井に確実に固定してください。

※1 付属の化粧ビス(白)は、石膏ボードビス(3.9×32)です。
天井の材質に合わせて、ビスを選定してください。

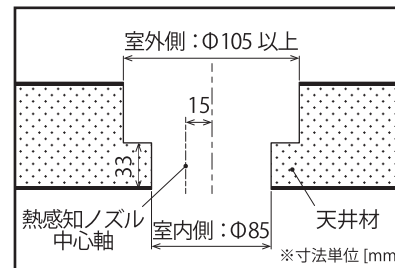


図4

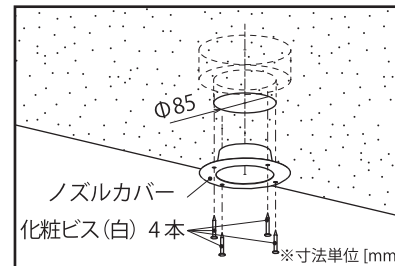


図5

⚠ 注意

- ❗ 必ずノズルカバーを使用して、堅固な場所に、確実に固定してください。
- ❗ 熱感知ノズルが防護面積の中心になるように設置してください。(図4)
熱感知ノズルの中心位置は、下穴の中心に対して約15mm前方にずれます。熱感知ノズルが防護したい場所の中心になるように、防護面積（3㎡）の中心に対し、約 15mm 後方にずれた位置に穴を開けてください。

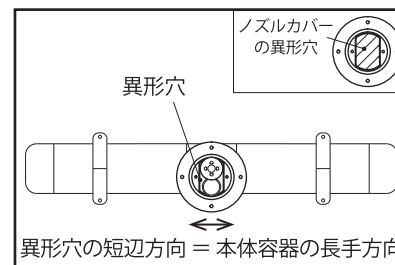


図6

4 熱感知ノズル・本体容器を固定する

① ノズルカバーに熱感知ノズルを固定する（図7）

ノズルカバーに室外側から熱感知ノズル部分を通し、固定用プレートとノズルカバーの穴位置を合わせてください。

付属の取付ネジ（M4×10）を2本使用して、確実に固定してください。

② 本体容器を固定する（図8）

本体容器は必ず水平な場所に設置し、固定用バンドの脚部に取付ビス※2を4本使用して、天井に確実に固定してください。

※2 付属の取付ビスは、ステンレス製のドリルビス(4×10)です。
天井の材質に合わせて、ビスを選定してください。

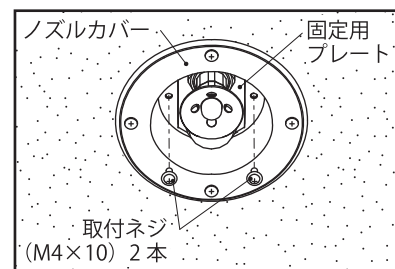


図7

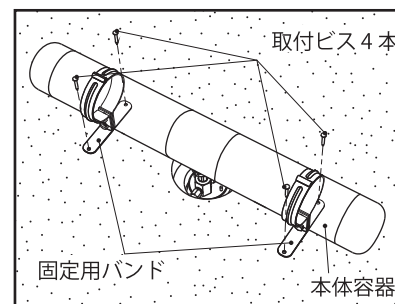


図8

⚠ 注意

- ❗ 本体容器は水平な場所に、放出口が真下を向くように設置してください。
- ❗ 地震や振動などで、本体容器が落下しないように、固定してください。
- ❗ 熱感知ノズルは、真下に向けて、確実に取り付けてください。
消火薬剤は、ノズルから約 60° の円錐状パターン内に放射されます。

5 取付状態を最終確認する

- ☑ 本体容器が、しっかりと取り付けられている
- ☑ 指示圧力計の指針が緑色の範囲内(0.7～0.98MPa)に入っている(図9)
- ☑ 熱感知ノズルの取付方向が、真下を向き、確実に固定されている

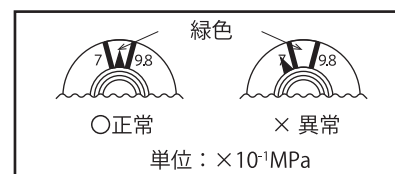


図9